

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名(杉の子特別支援学校石薬師分校)

1 目指す姿

(1)目指す学校像		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす
(2)	育みたい 児童生徒像	○自立と社会参画をめざし、主体的に取り組む子ども ○自己肯定感と他者を思いやる気持ちを持ち、自他の命を大切にし、人権感覚あふれる子ども
	ありたい 教職員像	○多様化、複雑化する社会に対応し、学び続ける姿勢を持った教員 ○豊かな人権感覚を持ち、子どもの成長を保護者と喜び合える教員 ○知的障がい教育および肢体不自由教育における高い専門性を有する教員 ○計画的で柔軟かつ組織的な対応ができ、教育・福祉・医療等関係機関と連携した教育活動に取り組める教員 ○教育公務員としての責務を自覚し、自らを律することができる教員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜児童生徒＞ 様々な体験的な学習や自分自身が活躍できる経験を通して、将来の自分らしく生活するために必要な力を、楽しく身に付けたいと望んでいる。 ＜保護者＞ 安全安心な学習環境の維持と児童生徒一人ひとりの特性に応じた教育の充実、卒業後の進路実現を期待する声が大い。 ＜地域・関係機関＞ 鈴鹿亀山地域の特別支援学校として、地域の特別支援教育の推進に向けたセンター的機能を充実させてほしい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	＜保護者＞ 連携・協力するために、児童生徒や学校の現状を知らせてほしい。 ＜地域の学校＞ 特別支援教育に係る情報提供や共生社会の実現に向けた交流教育を進めてほしい。 ＜地域の関係機関(企業・福祉施設等)＞ 連携・協力するための情報提供をしてほしい。 ＜地域社会＞ 共生社会の実現に向けて、ともに活動できる機会を提供してほしい。 ＜石薬師高校＞ 連携・協力するための情報提供をしてほしい。	＜保護者＞ 子どもの規則正しい生活と子どもの心に寄り添う子育てに協力してほしい。 ＜地域の学校＞ 交流教育の受入と充実に協力してほしい。 ＜地域の関係機関(企業・福祉施設等)＞ 学校の教育活動を理解し、卒業後を見据えた実習等、連携した取組を継続してほしい。 ＜地域社会＞ 学校の教育活動を理解し、児童生徒が活躍できる場を提供してほしい。 ＜石薬師高校＞ 身近な共生社会として、ともに活動する機会を作してほしい。
(3)前年度の学校関係者評価等	学校再編により、杉の子特別支援学校は、鈴鹿亀山地域の肢体不自由のある児童生徒と知的障がいのある児童生徒の通う学校となった。これまで以上に、肢体不自由教育及び知的障がい教育の充実に取り組む必要がある。 学校再編にともなう学習環境の変化における児童生徒保護者の不安を心配する声が寄せられている。児童生徒保護者の思いに沿った取組が求められている。 地域の特別支援学校として、センター的機能の充実や地域と協働した学校づくりを求める声が高まっている。 令和4年度の差別事象に係る取組では、教職員の児童生徒の特性を捉えた丁寧な指導と生徒の実践行動力の育成という成果があった。継続した取組を行いたい。	

(4) 現 状 と 課 題	教育 活動	肢体不自由教育、知的障がい教育の充実に向けて、学習指導要領に即した教科指導を行う必要がある。そのために、教育課程の見直しと年間計画の整備が急がれる。 また、児童生徒の自立と社会参画をめざし、系統的なキャリア教育の推進が求められている。地域と連携することにより、学びの場を広げ、児童生徒のキャリア発達を促進したい。 令和4年度の差別事象を踏まえ、引き続き児童生徒の発達段階に応じた教育を進め、自ら周囲の者に相談する力や人権を守るための実践行動をとれるよう、命を大切にする教育を一層推進する。
	学校 運営等	新しい学校体制における児童生徒保護者の不安に寄り添い、安全安心な学校づくりに取り組む。 管理職がリーダーシップを発揮し、ワークシェアの推進、組織全体での応援体制がとれるよう仕組みづくりに取り組む。 スクールボランティアの再開や地域とのつながりを強化し、地域と協働した学校づくりを推進する。

3 中長期的な重点目標

教育活動	(1 教育課程の整備) ・新学習指導要領に即した年間計画の整理、教育課程の見直しを行い、教科学習を充実させる。 (2 キャリア教育の充実) ・児童生徒の発達段階に応じ、地域と関わる学習や作業学習、実習や職業体験学習を通してキャリア発達を促進させる。 (3 命を大切にする教育の充実) ・令和4年度差別事象を踏まえ、児童生徒への丁寧なかかわりを継続し、自尊感情を育む教育と児童生徒のつながりを確かなものにする仲間づくりに取り組むとともに、知識的側面を強化した人権学習や葛藤のある人権学習を通して、実践行動力を育成する。 ・自分も相手も大切にする性に関する指導を強化する。 ・いじめにかかる実態の把握に努めるとともに、迅速かつ組織的対応の強化、児童生徒による主体的な活動の充実に取り組む。
学校運営等	(4 信頼される学校づくり) ・新しい学校体制への不安等、児童生徒や保護者の思いに寄り添った指導に取り組む。 ・研修受講を奨励するとともに研修の機会を保障し、教職員の専門性の向上をめざす。 ・「信頼される学校であるための行動計画」に基づき、年間を通じたコンプライアンス研修、風通しの良い職場づくりに取り組み、杉の子特別支援学校における不祥事を根絶する。 (5 安全安心な学校づくり) ・バス運行会社と連携し、安全なスクールバス運行に取り組むとともに、自主通学生の通学路点検を実施し、児童生徒の登下校の安全の確保に取り組む。 ・災害備蓄品の整備や要支援者受入を視野に入れた体制整備に取り組む、災害対策を充実させる。 ・危機管理マニュアルの整備・更新を行う。 (6 センターの機能の充実) ・本校・分校コーディネーターによるチーム支援や夏季公開講座等に取り組む、地域の特別支援教育を推進する。 ・教育相談、就学支援委員会等の機会における情報収集と関係機関と連携した支援体制の構築により、校内支援を充実させる。 (7 地域協働の取組) ・自治会の行事や地域の人権フェスティバル等に参加する。 ・スクールボランティアの再開や加佐登探検隊、芋ほり、幼稚園訪問など地域と連携した活動を充実させる。 ・石薬師高等学校とのつながりを、図書館利用や避難訓練、オフサイトミーティング等とともに取り組むことで強化する。 (8 働きやすい職場づくり) ・管理職がリーダーシップを発揮してワークシェアを推進し、業務の偏りの解消に努める。 ・令和6年度を見据えた組織づくりに取り組み、持続可能な学校組織づくりを推進する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 教育課程の整備	1 教育課程の整備 (1)新学習指導要領に即した教育課程の見直しを行い、小学部からの連続性や整合性を図る。 【活動指標】 ・教務担当者会等での検討会 年6回 (2)観点別学習状況の評価を位置付けた年間計画の作成を行い、内容の整理を図る。 【活動指標】 ・授業担当者会の実施 年3回(中学部・高等部) ・高等部作業学習会の実施 年6回 (3)各教科の目標設定と観点別学習状況の評価を明記した指導略案を作成し、教科学習の充実を図る。 【活動指標】 ・中学部において略案作成 学級において1回実施 ・高等部において略案作成 一人1回実施	○ 実施済 6回 ・各学部の教育課程を整理 ○ 実施済 3回 ○ 実施済 6回 ○ 実施済 1回 ○ 実施済 1回	※
2 キャリア教育の充実	2 キャリア教育の充実 (1)生徒の適性や希望に応じた進路実現に向けた進路指導を進める。 【活動指標】 ・中学部校内実習の実施 年1回 ・高等部1年生において職業チェックリスの実施 年1回 ・高等部現場実習の実施 学期に1回 年3回 【成果指標】 ・中学部校内実習後のアンケートにおいて「がんばった」、「やりきった」と回答した生徒の割合 80%以上 ・高等部1,2年生の現場実習後のアンケートにおいて「卒業後の生活イメージを持つことができた」回答した生徒の割合 80% ・高等部3年生において9月時点における就労希望者全員の就労実現 100% (2)地域資源を活用した校外職業体験実習を実施し、組織的計画的なキャリア教育を進める。 【活動指標】 ・高等部地域企業と連携した校外体験実習を実施 1年生…年8回実施 2年生…年10回実施 【成果指標】 ・校外体験実習後のアンケートにおいて「意義があった」、「自分のためになった」と回答した生徒の割合 80%以上 (3)学校組織全体でキャリア教育を進め、小学部段階からのキャリア教育の重要性や学校卒業後の生活のイメージを持つことの大切	○ 実施済 1回 ○ 実施済 1回 ○ 実施済 学期1回年3回 ○ 達成中学部 100% ○ 達成高等部3年生 高1年生 92.5% 高2年生 96.5% ○ 達成 9月時点5名希望 1月時点 5名就労 ○ 高等部 実施済 1年生 8回 実施済 2年生 10回 ○ 達成高等部 100%	◎

3 命を大切に にする教育の 充実	切さについて理解促進を図る。 【活動指標】 ・小学部の保護者を対象とした進路説明会を実施 ・全教職員を対象とした進路研修会を実施 【成果指標】 ・進路説明会実施後のアンケートにおいて「キャリア教育の理解が進んだ」と回答した小学部保護者の割合 80%以上 ・研修会実施後のアンケートにおいて「積み上げる進路指導の理解が進んだ」と回答した教員の割合 100% 3 命を大切に にする教育の 充実 3 命を大切に にする教育の 充実 (1) 中学部において自分を大切にする自尊感情を育む教育を進め、生徒同士のつながりや仲間づくりを意識した教育活動を実践する。 【活動指標】 ・学部、学年、学級においてテーマにそった人権学習を実施 学期に1回 年3回 【成果指標】 ・中学部生徒において、「友だちとともに活動することが楽しかった」とアンケートで回答した生徒の割合 80%以上 (2) 高等部において知識的側面を強化した人権学習や、生徒が実践的な行動へつながる学習を進める。 【活動指標】 ・学部、学年、学級テーマにそった人権学習を実施 学期に1回 年3回 【成果指標】 ・高等部生徒において、「安心して学校生活を送るために何かできることをしたい」とアンケートで回答した生徒の割合 80%以上 (3) 自分や他者思いやり命の大切さや性に関する正しい知識を身につけ行動できるよう、性に関する指導を中学部高等部において進める。 【活動指標】 ・学部ごとにテーマにそった性に関する学習を実施 学期に1回 年3回 【成果指標】 ・取組後のアンケートで、「自分や他者を傷つけず思いやることが大切である」と回答した生徒の割合 80%以上(中同学部) (4) 生徒が命を大切にし、いじめや暴力を許さず、相手を思いやる心や個性を認め尊重する態度を育む教育活動に取り組む。 【活動指標】 ・いじめを未然に防ぐための「いじめ防止学習会」を実施 年2回 【成果指標】 ・実施後のアンケートで「何か心配なことがあれば、まわりの人に相	○ 実施済 1回 ○ 実施済 2回 ○ 達成保護者 100% ○ 達成教員 100% ○ 実施済 3回 ○ 達成中学部 100% ○ 実施済 4回 ○ 達成高等部 96.1% ○ 実施済 各学部3回 ○ 達成中高生徒 90% ○ 実施済 2回 ○ 達成 中学部 91%	◎
----------------------------------	--	---	----------

	談をする」と回答した生徒の割合 80%以上	高等部 89%	
改善課題			
＜教育課程の整備について＞ ○教育活動の充実をめざした教育課程の見直しが進んだ。特に教科等合わせた指導や自立活動の考え方について、全教職員で共通理解を図ることができた。また、年間指導計画の作成、進捗把握や見直し、3観点の目標設定など授業のカリキュラムマネジメントを日々行うことで、よりよい授業実践へとつなげることができた。 ●引き続き、教職員の授業力向上を図るため、授業づくりをテーマにした研修及び検討会等を各学部において進める。 ＜キャリア教育について＞ ○小学部中学部の保護者を対象とした進路説明会では、「子どもが成長するイメージを持つことができた」や「小学部段階からできることを積み上げることの大切さが理解できた」などの意見が多くあった。 ○小中高の全教職員を対象とした進路研修会を実施した。「あいさつをする」「返事をする」など日頃、小学部中学部の教職員が大切にしている教育活動が高等部の進路指導へつながっていくことを確認することができた。 ○高等部職業コースにおける地域企業と連携した校外体験実習では、計画的、組織的に進めることができた。体験実習において、生徒は就労の厳しさや社会人の方との接し方を実践的に学ぶことができた。「ありがとう」「助かるわ」など学校以外の方から声をかけられることで、仕事への貢献を体感することにつながった。石薬師分校と地域の結びつきも少し進んだ。 ●引き続き、キャリア教育プログラムを意識した教育活動の実践及び、保護者に学校卒業後のことについて積極的に考えてもらう機会を設定するなど、組織全体でキャリア教育を進める。 ＜命を大切にする教育の充実＞ ○各学部でテーマを設定した学習活動や教職員研修に計画的に取り組んだ。学期に1回人権教育推進協議会を実施し、いただいた意見を参考に次の実践へとつなげることができた。また、「人権教育カリキュラム」の作成に着手した。学級担任が活用しやすいよう学習教材や題材までを明記したカリキュラムが完成した。 ●人権教育推進協議会において、学習後の生徒へのアンケートの実施方法では、アンケートの結果に対する分析とその対応にこそ生徒の気持ちがかくされている場合があると意見をいただいた。来年度は、アンケートの質問の内容、事後の対応を意識して取組を進める。作成した人権教育カリキュラムを活用して、発達段階に応じた学習に取り組む。			

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
4 信頼される学校づくり	4 信頼される学校づくり (1)学校での学習活動や行事の様子を学校ホームページや通信の発行など様々な媒体を活用し、積極的に広く保護者や地域へ発信する。 【活動指標】 ・学校での取組内容を保護者へ知らせるための学校通信を年3回発行(いじめ防止学習、スマホ教室、防災防犯学習の取組報告) ・保護者に学校での様子を知ってもらうための授業参観を実施 学期に1回ずつ 年3回 ・保護者が評価しやすい学校評価アンケートを実施 年1回 【成果指標】 ・授業参観後の実施アンケートにおいて保護者が「学校での学習の様子がよく伝わった」と回答した割合80%以上 ・学校評価アンケートにおいて、「学校は相談しやすい雰囲気がある」と回答した保護者の割合 80%以上	○ 実施済 6回 ○ 実施済 3回 ○ 実施済 回収率78% ○ 達成保護者 81.9% ○ 達成保護者 84%	◎

	(2)保護者向け文書では、読みやすく見やすい文書を作成する。 【活動指標】 ・教員の意識調査を実施 年1回 (3)教員としての専門性の向上を図るため、教員が各自の課題に応じた研修を受講し、日々の教育活動へ活かす。 【活動指標】 ・夏の人権研修会を実施 ・各自の課題に応じた研修を実施 一人1回実施 【成果指標】 ・教員アンケートにおいて、「研修は日々の教育活動へ役立った」と回答した教員の割合 80%以上 (4)信頼される学校づくりを進めるため、管理職のリーダーシップのもと「学校信頼向上委員会」を開催し、常に「公の奉仕者」であることを意識できるよう、定期的な研修を行う。 【活動指標】 ・教職員対象コンプライアンス研修を年4回実施 ・教職員対象コンプライアンスミーティング研修を年4回実施	○ 実施済 1回 ○ 実施済 1回 ○ 実施済 一人1回 ○ 達成教員 82% ○ 実施済 14回 ○ 未実施 3回	
5 安全安心な学校づくり	5 安全安心な学校づくり (1)自主通学の生徒が交通事故や犯罪にまきこまれないよう、通学路安全マップを活用した指導を行う。 【活動指標】 ・自主通学生全員の通学路安全マップを作成 (2)危機を予測した組織的な対応を目指すため、生徒対象に防災ノートを活用した学習を進め、教職員対象とした図上訓練を実施する。 【活動指標】 ・教職員向け下校時災害対応訓練を実施 年2回 ・防災ノートを活用した防災訓練及び学習を実施 学期に1回ずつ 年3回 【成果指標】 ・防災学習実施後のアンケートにおいて、日頃から災害の意識することの大切さを理解した高等部生徒の割合 70%以上 (3)危機管理に即した対応マニュアルの説明会や対応訓練を実施し、安心安全な学校づくりを進める。 【活動指標】 ・救命法講習会を実施 ・アレルギー対応訓練を実施 ・てんかん発作時の対応訓練を実施 ・医療的ケアが必要とする生徒の緊急時対応訓練を実施 ・熱中症ガイドラインの確認及び対応訓練を実施	○ 必要な生徒 実施済 ○ 実施済 2回 ○ 実施済 3回 ○ 達成 高等部80% ○ 実施済 ○ 実施済 ○ 実施済 ○ 実施済 ○ 実施済	

6 センターの 的機能の充 実	6 センターの機能の充実 (1)鈴鹿地域の中学生を対象とした高等部作業体験会において、特別支援学校の教育内容について理解促進を図る。 【活動指標】 ・夏季休業中に高等部作業体験会を実施 【成果指標】 ・実施後のアンケートにおいて、作業体験会に満足した生徒の割合 80%以上 ・実施後のアンケートにおいて、石薬師分校の教育内容が理解した保護者の割合 80%以上 (2)鈴鹿亀山地域の学校を対象としたオンライン相談会において、地域の特別支援教育の専門性の向上を図る。 【活動指標】 ・オンライン相談会を実施 年3回 【成果指標】 ・実施後のアンケートにおいて、特別支援教育の理解が進んだと回答した参加者の割合 80%以上 (3)地域の学校が気になる子どもについて気軽に相談できるような仕組みを構築し、相談体制の充実を図る。 【活動指標】 ・相談内容をまとめたチラシを作成 ・相談件数 50件 (訪問による相談、来訪による相談、オンラインによる相談、電話による相談含む)	○ 実施済 ○ 達成 生徒100% ○ 達成 保護者100% ○ 実施済 3回 ○ 達成地域学校100% ○ 実施済 チラシ作成 ○ 達成地域学校 264件	
7 地域協 働の取組	7 地域協働の取組 (1)石薬師分校の教育内容等の理解促進を図るため、地域との連携強化を進める。 【活動指標】 ・地域の行事やイベントへ参加 年3回 ・白鳥中学校との交流及び共同学習を実施 年3回 ・石薬師高校とのオフサイトミーティングを実施 年1回 ・石薬師高校との合同学習及び交流を実施 年4回	○ 実施済 4回 ○ 実施済 3回 ○ 実施済 1回 ○ 実施済 5回	※
8 働きやす い職場づく り	8 働きやすい職場づくり (1)風通しのよい職場づくり、働きやすい職場環境をめざし、年間通じて職場環境や業務についての意見を反映し、職場の改善を行う。 【活動指標】 ・分校オフサイトミーティングを実施 年1回 ・教職員満足度調査を実施 年1回 【成果指標】 ・職員アンケートにおいて、「校務へのやりがい・楽しみ」を感じてい	○ 実施済 1回 ○ 実施済 1回 ○ 達成教員 98%	※

	る教職員の割合 80%以上 (2)会議の効率化と定時退校日の確実な実施するとともに、職員のワークライフ・バランスを意識した職場作りを行う。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合(年 90%以上) ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合(年 100%) ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合(年 90%以上) 【成果指標】 ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数(年 0人/66人) ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数(年 0人/66人) ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下(月 63人/66人) ・1人当たりの年間休暇取得日数10日以上(年 66人/66人)	○ 達成教員 100% ○ 達成教員 100% ○ 達成教員 96% ○ 達成教員 0人 ○ 達成教員 0人 ○ 達成教員 66人 ○ 達成教員 66人	
--	--	--	--

改善課題

<信頼される信頼される学校づくり><安全安心な学校づくり>

○保護者アンケート(学校評価)では、石薬師分校に期待する項目として、生活指導、進路キャリア教育、安心安全に学べる場の3項目があがった。多くの保護者より石薬師分校の教育において、「お子さんはできることが増えた」など、数値結果は、どの項目内容も一定の評価をいただいた。

○信頼される学校づくりを進めるため、管理職のリーダーシップのもと定期的なコンプライアンス研修等に取り組んだ。事案につながるような課題等は起きていない。

●引き続き、保護者や地域から信頼され、安全安心な学校づくりを進める。

<センター的機能の充実>

○センター的機能の取り組み内容について一目で確認できるチラシを作成したことで、相談会への参加率が高まるとともに、相談件数も増加した。

○新たに試みた長期休業中の地域の中学校生徒対象の作業体験会では、17名の中学生が参加した。石薬師分校での学習内容を実際に体験したことで、教育内容の理解につながった。

●相談会では、一方的な講義形式ではなく、参加者の気持ちを受け止めながら支援方法をアドバイスする必要がある。そのため、石薬師分校の特別支援教育に係る専門性の向上がさらに求められる。教職員が専門性をみにつける校内の仕組みづくりを進めるとともに、引き続き地域のセンター的機能の充実に努める。

<地域協働の取組>

○地域の催しへ4回参加し、地域の方々に杉の子の石薬師分校の教育及び取組内容について啓発した。

●引き続き、「地域協働・連携」を意識した取組を継続し、石薬師分校を知ってもらう機会とする。

<働きやすい職場づくり>

○教職員満足度調査において、「校務へのやりがい・楽しみ」を感じている教職員の割合は、98%であった。反対に、4割の教職員が「勤務時間で職務を終えられない」と感じている。また、「必要な時に、休暇等を取得することができる」や「学校は、概ね健康・安全に配慮された環境が維持されている」などの職場環境について、満足していない状況にあった。

○同僚性を高める、風通しのよい職場づくりをめざすため、オフサイトミーティングを実施した。特に今年度は、中学部と高等部が一緒になった初年度のため、中核部と高等部の教職員が交流しやすい内容を検討して実施した。

○時間外在校等時間が月45時間を超える教職員は、0人である。しかし、心身の不調より病欠休暇の教職員が4名いる。

- 引き続き、管理職がリーダーシップとり、風通しのよい職場づくり、働きやすい職場環境をめざし、年間通じて職場環境や業務についての意見を反映し、職場の改善に取り組む必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	＜キャリア教育について＞ ・パートナーシップ会議において、企業の方からいただいた意見を学校教育に反映できるところは活かして教育活動を行ってみてはどうか。また、中学校段階からの企業見学も積極的に取り入れてはどうか。 ・杉の子石薬師分校の教育内容や進路指導について市内の中学校長会で説明をした。ほとんどの校長は、杉の子石薬師分校のキャリア教育をはじめて知ったようだった。中学校において、中学3年生時に進路指導が始まっていたのは遅い。小学校から中学校への進学時において、支援学級籍の生徒や保護者に学校卒業後の姿やどんな進路選択があるのかを伝えていくことが必要である。早期からのキャリア教育の重要性を再認識した。 ＜センター的機能の充実＞ ・センター的機能の活用は中学校として十分に行えなかった。活用について検討したい。 ＜命を大切に教育の充実＞ ・目標やめあてが一目で確認できる指導指標となる人権教育カリキュラムはとてもよい。みなが同じ目的で学習が進められる。ぜひ令和6年度は、このカリキュラムに基づき人権教育を進めてほしい。 ・人権教育カリキュラムの精度をさらに検討する際には、「特別支援学校の小1段階」が何をさしているのか、誰がみても理解できるよう、表記を具体的にわかりやすくした方がよい。 ＜信頼される学校づくり＞ ・保護者アンケートの結果では、一定の評価をいただいている。自分の子どもはことばを話すことができないが、いつも丁寧に対応してもらっているのも、ありがたい。引き続き、子どもたち中心の教育活動を行ってほしい。 ・生徒への接し方について、定期的に教職員が自ら振り返っており、素晴らしい。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・学習指導要領に即した教科指導等を行う必要がある。 ・生徒の自立と社会参画をめざし、系統的なキャリア教育を推進する。 ・地域と連携することにより、さらに職業コースの充実を図る。 ・人権教育カリキュラムを活用し、教育活動全体を通して、人権教育に取り組む。
学校運営についての改善策	・生徒や保護者に寄り添い、安全安心な学校づくりに取り組む。 ・管理職がリーダーシップを発揮し、ワークシェアを推進するとともに組織全体で応援体制がとれるよう仕組みづくりを行う。 ・地域と協働した学校づくりを推進する。 ・信頼される学校づくりに向けたコンプライアンス研修や不祥事防止研修を進める。